

USR活動評価 — 統合報告書による情報開示

【報告者】

齊藤紀子（千葉商科大学人間社会学部） 橋本隆子（千葉商科大学商経学部）
奥寺 葵（千葉商科大学商経学部）

本日の報告の流れ

1. USR活動評価（2017～2020年度研究活動）
 - 1-1. USR評価指標づくりの考え方
 - 1-2. 研究の背景・目的・進め方
 - 1-3. 評価指標案
2. 統合報告書による情報開示（2021年度研究活動）
 - 2-1. 統合報告書とは
 - 2-2. 本学発行の統合報告書
 - 2-3. 本学の統合報告書の質向上をめざす活動

1. USR活動評価

(2017～2020年度研究活動)

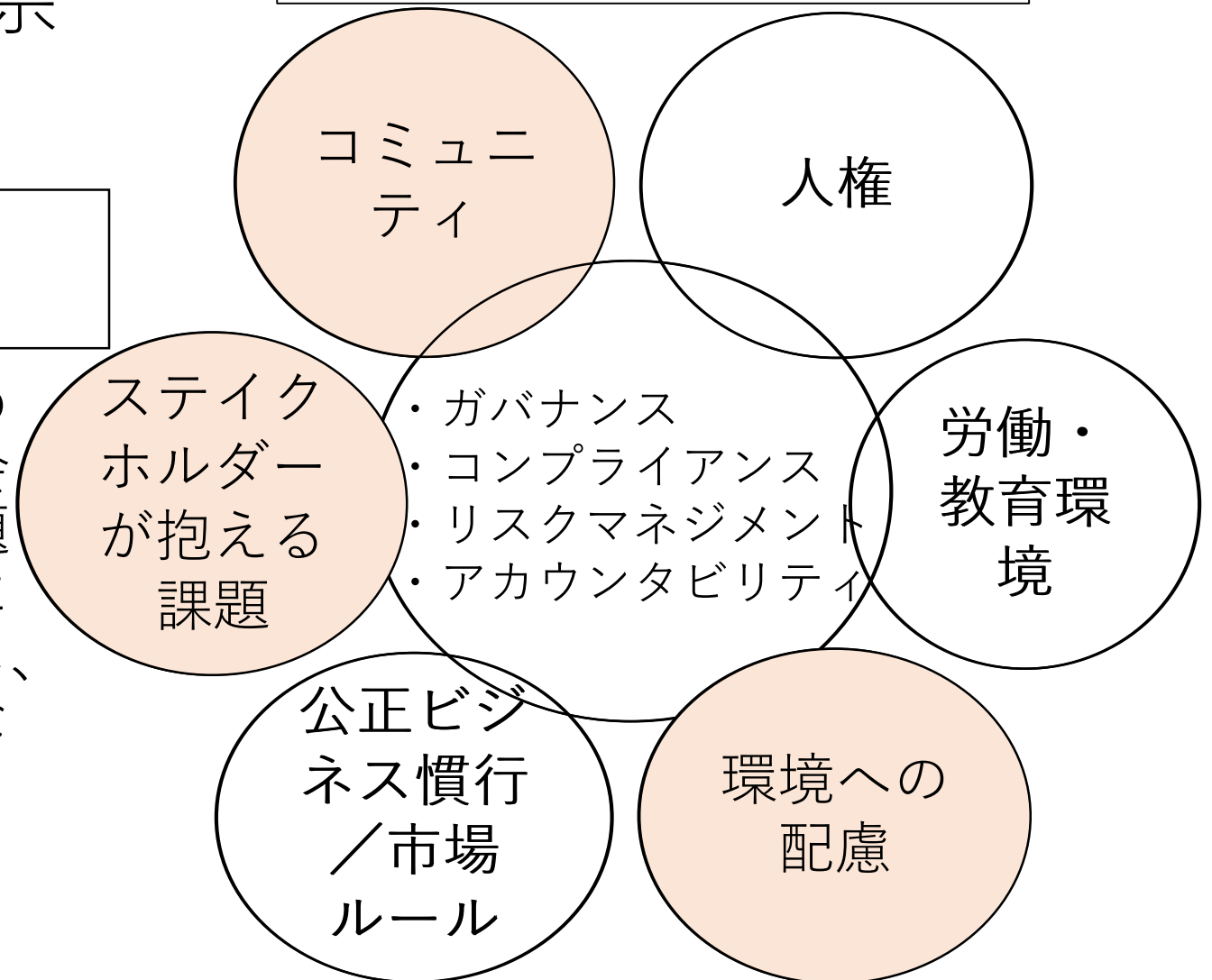
1-1. USR評価指標 づくりの考え方

USRとは
(University Social Responsibility)

大学が教育・研究等を通じて建学の精神等を実現していくために、社会（ステイクホルダー）の要請や課題等に柔軟に応え、その結果を社会に説明・還元できる経営組織を構築し、教職員がその諸活動において適正な大学運営を行うこと

(USR研究会2006)

USRの7つの中核課題



(出所) USR研究会 (2006) をもとに作成

先行する取り組みとその課題



University of Indonesia Green Metric
World University Ranking (2010～)

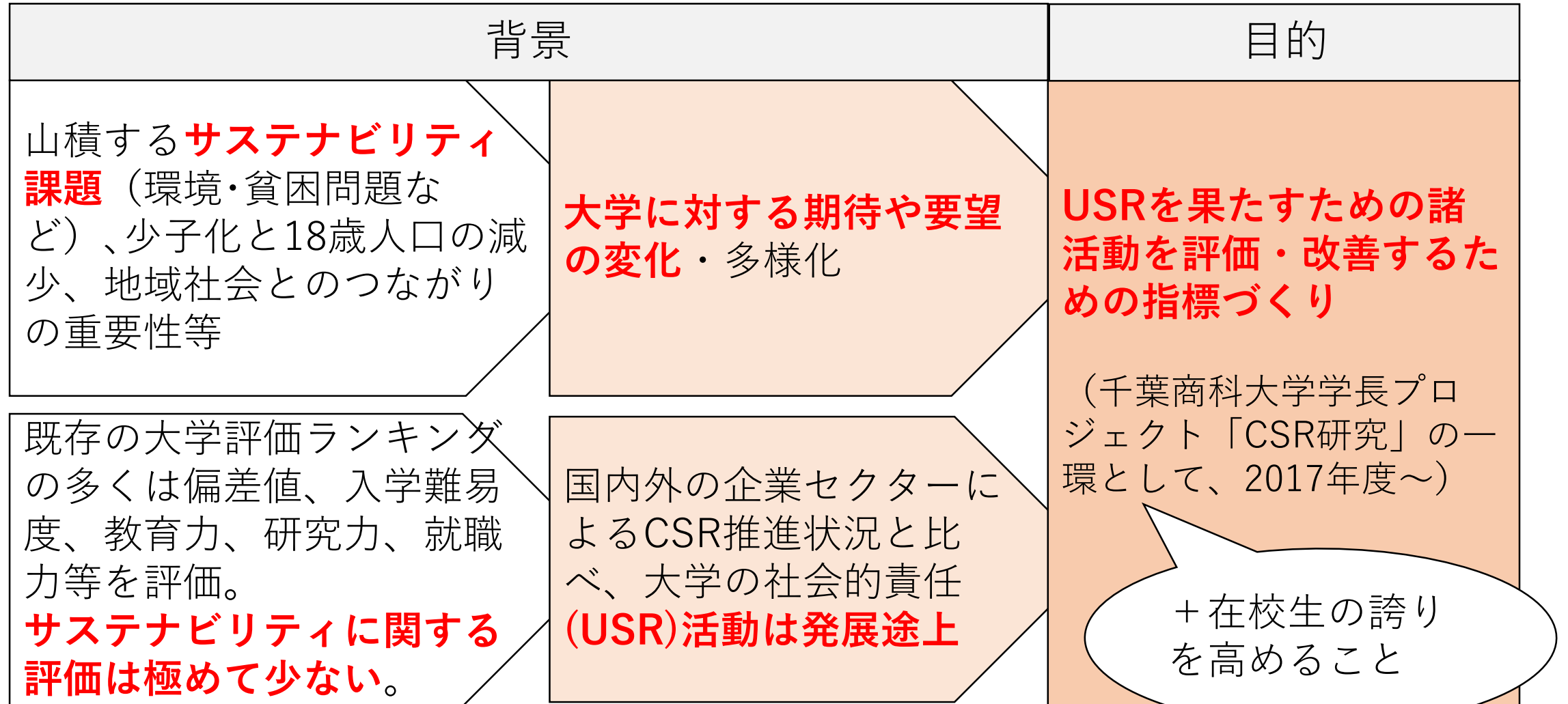


Times Higher Education Impact
Rankings (2019～)

- 途上国から先進国までの**あらゆる大学が回答可能な指標の設定が難しい**
- 一般的な認知度はまだ低く、「**USR活動の促進**」という機能はこれから

USR研究会による課題群やこれらの新しいランキング指標を参考にして、（日本国内の一定地域のような）限定的に適用可能な指標を独自に創り、USR活動の促進に寄与することを目指した。

1-2. 研究の背景・目的



研究の進め方（2017～2020年度研究活動）



1-3. 評価指標案

- 2019年度までに開発した指標・KPI案（赤枠内）につき、コロナ禍のニューノーマルを考慮し再検討・絞り込み
- 他大学におけるUSR活動評価・改善のための自己チェック表を作成

	マテリアリティ	KPI		他大学が回答／自己評価するための指標案 (※評価対象は、原則として直近の前年度とする)
		定量データ	定性データ	
全般	SDGs認知度（教職員および学生）	SDGsを知っている人の割合	SDGs理解の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員および学生のSDGs認知度 ・（知っていると答えた回答者の）SDGsを知った場・機会（講義／業務／地域活動など） ・教職員および学生のSDGs理解度（SDGsとはどのようなものだと思うか）
	自大学の取り組みの自己評価および情報開示		USRレポート／サステナビリティレポート／統合レポートの有無	<ul style="list-style-type: none"> ・USRレポート／サステナビリティレポートあるいは統合レポートといった、非財務情報を開示するメディアを持っているか ・大学案内ツールにUSR／SDGsへの取り組みに関するページがあるか

中核課題	マテリアリティ	KPI		他大学が回答／自己評価するための指標案 (※評価対象は、原則として直近の前年度とする)
		定量データ	定性データ	
研究教育	奨学金問題	大学独自の学生支援制度、社会的状況に応じた支援（ルーター・パソコン貸出、通信費、生活費）の周知度、応募数、参加者数	学生満足度	<ul style="list-style-type: none"> 学生の「学び」を支援するための大学独自の制度があるか（周知方法、実績も） 社会的状況に応じた学生支援制度があるか（周知方法、実績も）
	国際的人材育成（留学・語学研修）	ダブルディグリー、学生交流イベント、留学生受入人数、語学研修制度の周知度、応募数、参加者数	学生満足度	<ul style="list-style-type: none"> 国際的人材育成のため、支援制度があるか。 当該支援制度の利用人数
	SDGsに関する研究プロジェクト	プロジェクト数（活動期間、活動人数）	プロジェクト内容、成果（知的・物的）	<ul style="list-style-type: none"> 学内にSDGsを研究する組織（プロジェクト）があるか（プロジェクト数、活動期間、活動人数） 当該組織（プロジェクト）の役割は何か？ 学内・学外のSDGsの理解促進や浸透のために、活動しているか。
	教員や授業に関する改善、授業における重要課題	教員の多様性、ツールの多様性（平均受講者数）、（ST比）、（出席・課題提出率）、（Complete率）、	教員の満足度（ツール使いやすさ、サポート、授業のしやすさ）	<ul style="list-style-type: none"> 教員が授業運営しやすいように、また学生の理解度を高めるためのツールや取り組み
学生生活の改善（消費者課題）	適切な学習環境（オープンPC状況調査、提案）	（オンライン）授業数、種類（オンライン、AL、対面、ユニバーサル、受講方法の多様性）、	授業満足度（オンライン、リアル） Wifi繋がりのやすさ	<ul style="list-style-type: none"> 授業満足度（オンライン、リアル）と前年度比 IT環境（クラウド、学内LAN、オンライン講義用ツール）がどれくらい整備されているか
	適切な学生交流（傾向、理由調査）	学生交流イベント数 参加者数	学生満足度 イベント内容	<ul style="list-style-type: none"> （授業外）学生交流イベント数、形態（オンライン、リアル）、参加者数、課外活動満足度と前年度比
	キャンパス環境、施設などの改善（学食状況調査、提案）	学食座席数 図書館他施設利用回数・人数	学生満足度 利用目的	<ul style="list-style-type: none"> 施設のオンライン化状況（図書館他） 施設の利用者数（リアル、オンライン）と前年度比
	資格取得（みずほ会、その他資格の体制調査、提案）	資格講座数 認知度	学生満足度 資格内容	<ul style="list-style-type: none"> 対象資格数、資格講座数と形態（オンライン、リアル）、参加者数と前年度比、学生認知度
	キャリアサポート（希望に叶う就職支援体制の評価）	キャリアイベント数 就職率	学生満足度	<ul style="list-style-type: none"> キャリアイベント数と形態（オンライン、リアル）、参加者数と前年度比、学生満足度、就職率

中核課題	マテリアリティ	KPI		他大学が回答／自己評価するための指標案 (※評価対象は、原則として直近の前年度とする)
		定量データ	定性データ	
地域社会との繋がり	施設開放（学生食堂・図書館など）	利用人数（延べ人数）	施設の利用目的	・開放施設利用人数（延べ人数）と前年度比
	学生による社会活動（ボランティア等）	ボランティアや活動型ALへの参加人数（延べ人数）	ボランティアや活動型ALの活動内容	・学生が参画する社会活動（ボランティア等）への参加学生の人数（延べ人数）と前年度比 ・その活動内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。
	社会（学校・行政・企業）との協働（イベント共催・地元名物の共同開発など） 外部NPO/NGOからのインプット（専門家招聘など）	協働プロジェクト数	協働プロジェクトの内容	・行政・企業・NPO等との協働によるイベントやプロジェクト（オンライン/リアル）が何件あるか。 ・その内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。
	教育機会の提供（公開講座・出前授業など）	公開講座/イベント（オンライン/リアル）への参加者数（延べ人数）	講座/イベント（オンライン/リアル）の内容	・公開講座やリカレント教育（オンライン/リアル）への参加者数（延べ人数）と前年度比 ・それら講座内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。
環境問題への取り組み	ゴミのリサイクルの実施、分別回収（2016年度5万3千kgから減量）	廃棄量／リサイクル量	意識啓発の実施	・廃棄物の廃棄量／年（分別回収の有無やリサイクル量） ・キャンパスが複数個所の場合は、キャンパス毎や総計
	エネルギー（電気・ガス）の使用量の削減	使用量（の推移）	意識啓発の実施	・年間エネルギー使用量（電気、ガス、再エネ率）
	水の無駄使いの削減	使用量（の推移）	意識啓発の実施	・年間水使用量（上水や中水の使用状況、井戸・地下水を利用している場合は、その使用状況）
	教職員と学生の連携（環境情報の見える化、情報共有、意識の醸成）	連携の取組みの実施数 学生生活調査等での認知状況	掲示板やwebサイトでの公表内容	・教職員や学生が知る機会はあるか？（入学前・後） ・実施している連携の取組みの内容は？

自己チェック表

		自己評価/経年変化の把握		
※すでにある指標（就職率や授業満足度、退学率など）に加えるものとして		2021年度	2022年度	2023年度
1. 全般				
1-1.専任教員数（学部・大学院）		人	人	人
1-2.在籍学生数（学部・大学院）		人	人	人
1-3.教職員および学生のSDGs認知度		%	%	%
1-4.USRレポート／サステナビリティレポート／統合レポートといった、非財務情報を開示するメディアをもっているか		有／無	有／無	有／無
1-5.大学案内ツールにUSR／SDGsへの取り組みに関するページがあるか		有／無	有／無	有／無
2. 研究教育				
2-1.SDGs関連科目数		科目数	科目数	科目数
2-2.SDGs関連研究予算		円	円	円
2-3.教員が参画するSDGs関連研究プロジェクト数		件	件	件
2-4.SDGs関連学生プロジェクト数		件	件	件
2-5.SDGs関連学生プロジェクトから生まれた商品／サービス数		件	件	件
2-6.教員が参画するSDGs関連研究プロジェクト（2-3）とSDGs関連学生プロジェクト（2-4）の内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。		Goal数	Goal数	Goal数
2-7.教員が参画するSDGs関連研究プロジェクト（2-3）とSDGs関連学生プロジェクト（2-4）のうち、産/官/民と連携して実施しているプロジェクト数		件	件	件

3. コロナ禍の学生生活の改善（消費者課題）			
3-1.授業満足度	%	%	%
3-2.IT環境の整備状況：学内クラウドが整備されているか？	有／無	有／無	有／無
3-3.IT環境の整備状況：LMS（学習管理システム）を始めとするオンライン講義用ツール・環境が整備されているか？	有／無	有／無	有／無
3-4.（授業外）人間関係づくりのための学生交流イベント数	回	回	回
3-5.（授業外）人間関係づくりのための学生交流イベントのうちオンラインによる実施回数	回	回	回
3-6.（授業外）人間関係づくりのための学生交流イベントの参加者数	人	人	人
3-7.図書館のオンライン蔵書検索機能および文献ダウンロードサービス	有／無	有／無	有／無
3-8.図書館利用者数	人	人	人
3-9.学内で開講している資格講座数	個	個	個
3-10.学内で開講している資格講座のうちオンラインで受講可能な講座数	個	個	個
3-11.学内で開講している資格講座の修了者数	人	人	人
3-12.学内で開講している資格講座の学生認知度	%	%	%
3-13.キャリアイベント数	回	回	回
3-14.キャリアイベントのうちオンラインで参加可能なイベント数	回	回	回
3-15.キャリアイベント参加者数	人	人	人
3-16.キャリアイベントの学生満足度	%	%	%

4. コロナ禍の地域社会との繋がり			
4-1.大学／教員が機会提供する社会活動（ボランティア等）への参加学生数（延べ人数）	人	人	人
4-2.その活動内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。	Goal数	Goal数	Goal数
4-3.リカレント教育講座の修了者数（延べ人数）	人	人	人
4-4.それらリカレント教育講座内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。	Goal数	Goal数	Goal数
5. 環境問題への取り組み			
5-1.廃棄物の廃棄量／年（キャンパスが複数ある場合は総量）	t	t	t
5-2.リサイクル（資源回収）量／年（キャンパスが複数ある場合は総量）	t	t	t
5-3.年間エネルギー使用量（電気やガスの総量、J（ジュール換算））	GJ	GJ	GJ
5-4.年間水使用量（上水や中水の使用総量、井戸・地下水を利用している場合は、その使用総量）	t	t	t
5-5.教職員や学生が知る機会はあるか？（入学前・後）	有／無	有／無	有／無

2. 統合報告書による情報開示 (2021年度研究活動)

2. 統合報告書による情報開示（2021年度 研究活動）

本学の統合報告書が今年7月にはじめて発行される。

制作スケジュール

5月	プロジェクト始動	
6月	勉強会	
7月	勉強会	
8月	協力会社選定	ヒアリング
9月	協力会社選定	項目検討
10月	項目検討&価値創造プロセス図	
11月	項目検討&価値創造プロセス図	
12月	項目選定	

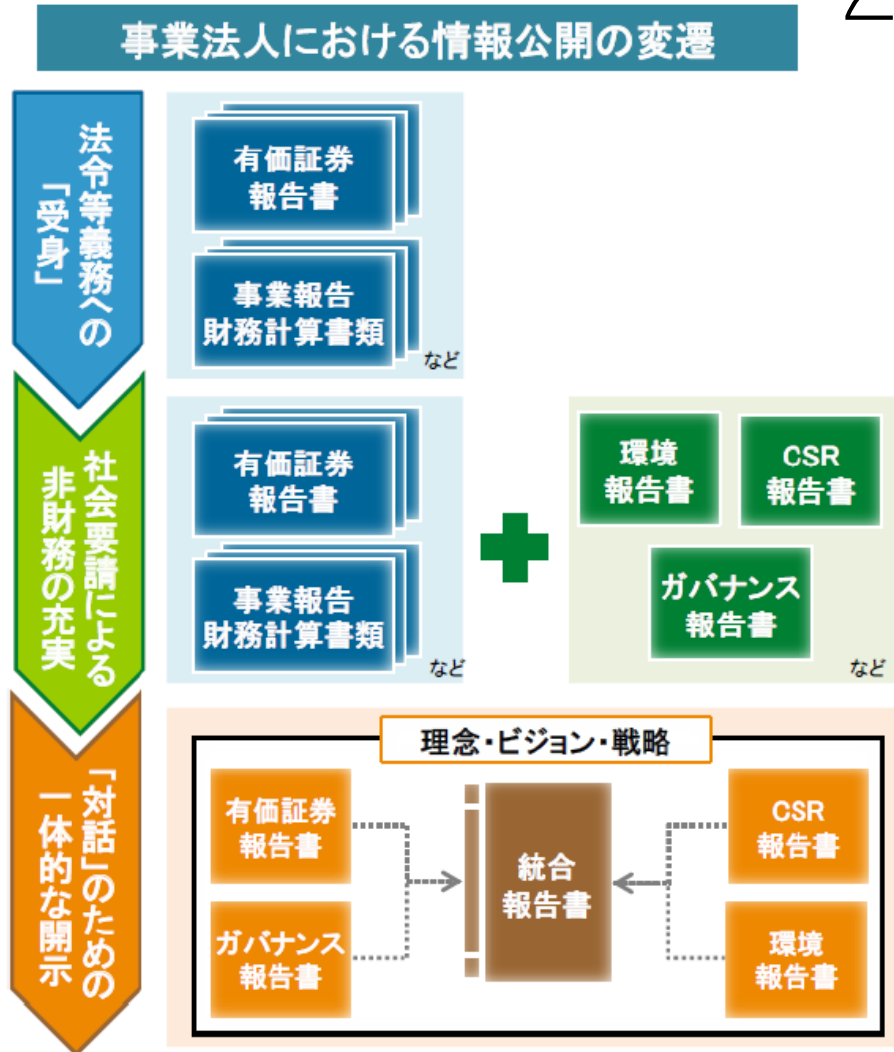
統合報告書プロジェクトメンバー

No	氏名	役割	所属室課
1	小林 博子	リーダー	国際センターオフィス
2	深山 浩一	サブリーダー	人事課
3	岡田 奈美	メンバー	学部事務課
4	小池 知佐	メンバー	キャリア支援センターオフィス
5	関 尚子	メンバー	入試セクション
6	千葉 達矢	メンバー	社会連携推進課
7	松原 翼	メンバー	学生課

1月	項目選定
2月	掲載内容提供&デザイン制作
3月	掲載内容提供&デザイン制作
4月	校正
5月	校正
6月	校正
7月	完成

事業法人に求められる情報開示

2-1. 統合報告書とは



財務情報と非財務情報を
関連付けた（統合した）
報告書
＝統合報告書

理念、ビジョン、戦略、課題などを
短・中・長期的に明示

その組織が社会（及びステークホルダー）へ
与える影響や社会的価値創出は何か説明

Copyright © 2020SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED All rights reserved.

統合報告書の目的と定義

目的

「財務資本の提供者に対し、組織がどのように長期にわたり**価値を創造**するかを**説明**すること」

定義

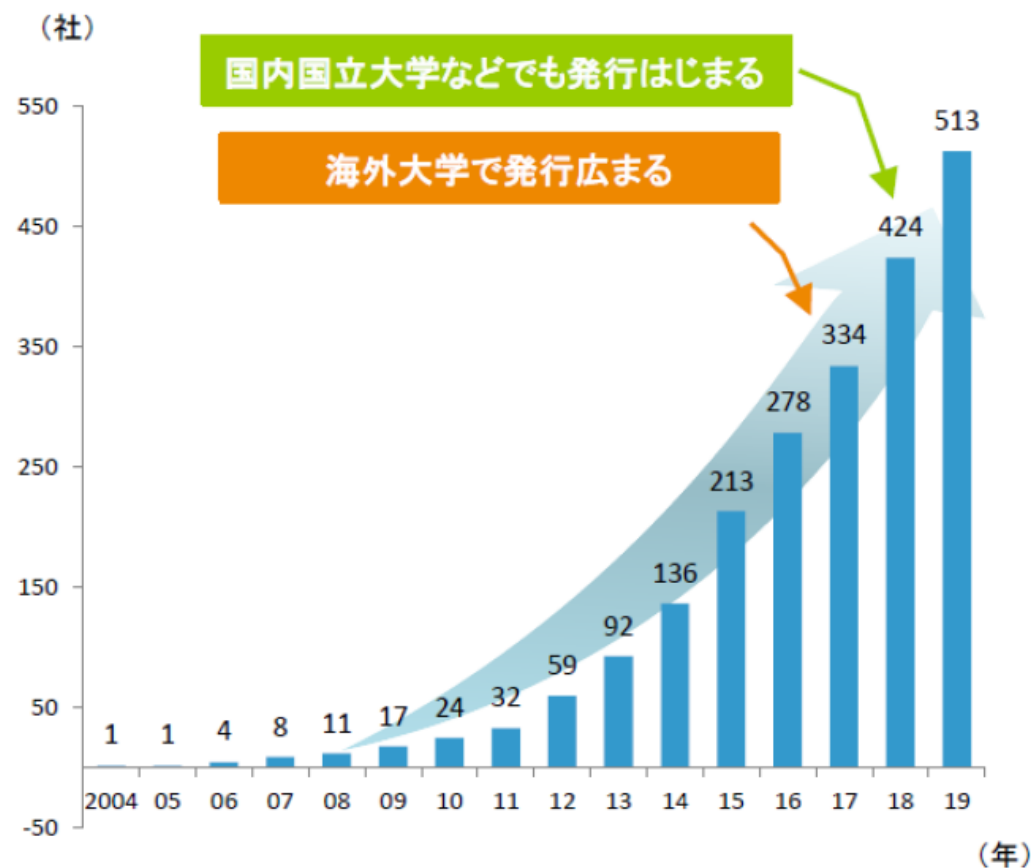
「組織の戦略、ガバナンス、実績、及び見通しが、どのように短、中、長期に**価値創造**を導くかについての**簡潔なコミュニケーション**」

統合報告書フレームワークより抜粋

**事業法人などの組織が、ステークホルダー（利害関係者）に
情報開示・説明をするためのコミュニケーションのひとつ**

統合報告書を発行する事業法人は増加傾向にある

【統合報告書発行企業推移】



【出所】企業価値レポート・ラボ
国内自己表明型統合レポート発行企業リスト2019年版)

2021年7月発行に向け、本学も始動

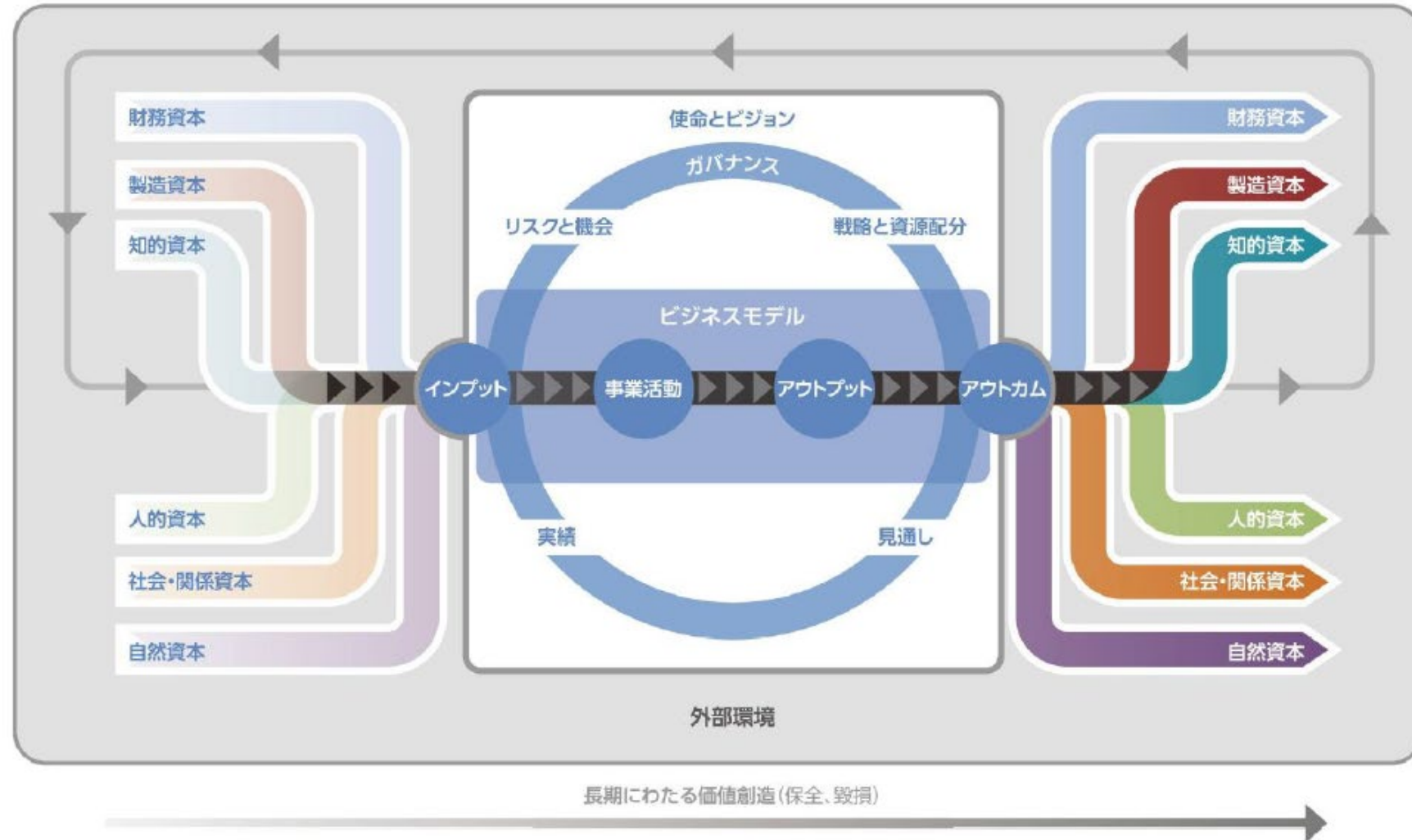
Copyright © 2020SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED All rights reserved.

IIRCが開発した「統合報告書フレームワーク」

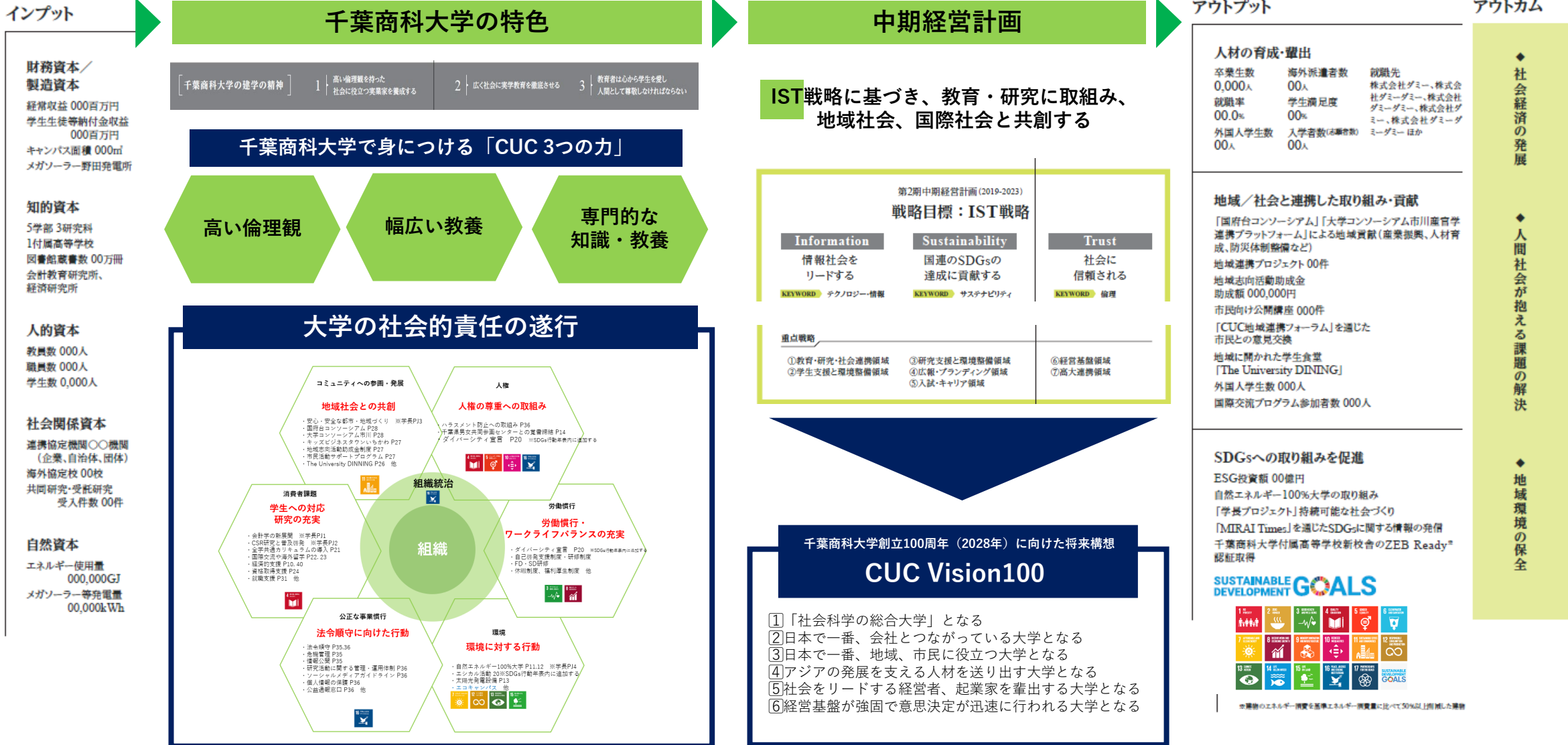
- IIRCとは：国際統合評議会
（International Integrated Reporting Council）
- 規制当局、投資家、企業、基準設定主体、会計専門家及びNGOから構成される、国際的な連合組織
- 「企業の情報開示について国際的な枠組みを開発すること」を目的に設立（2010年10月）
- 評議メンバーは約70の組織
「国際会計基準審議会（IASB）」「国際コーポレートガバナンスネットワーク（ICGN）」「証券監督者国際機構（IOSCO）」「日本証券取引所」「マイクロソフト」「ネスレ」「世界銀行」「世界経済フォーラム（WEF）」「4大監査法人」「ハーバード大学」など



価値創造プロセス



作成中



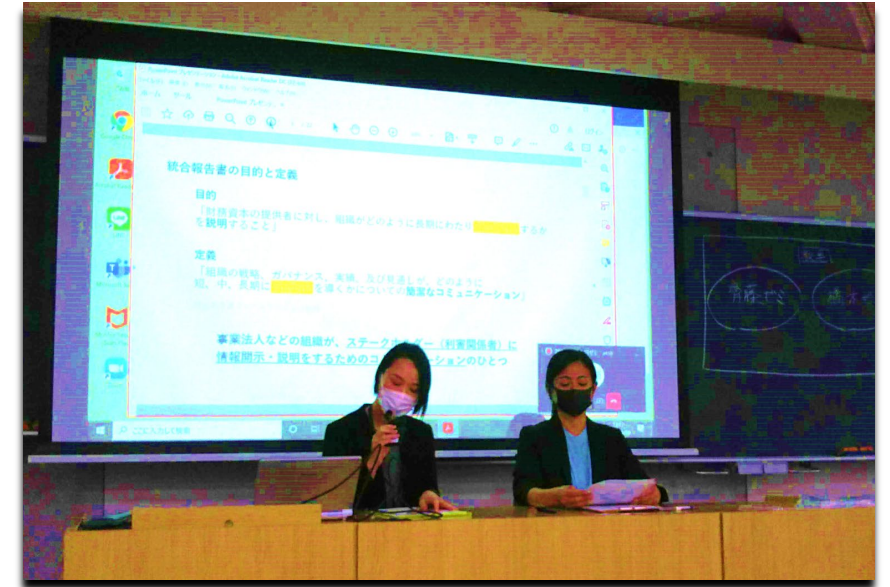
知徳豊かな持続可能社会の実現

※目標のエネルギー消費量を基準エネルギー消費量に比べて50%以上削減した建物

2-3. 本学の統合報告書の質向上をめざす活動

今後、本学の統合報告書の質をさらに高めていくために：

- 本学の統合報告書作成の考え方を教職員・学生も理解し、報告書を読む
- 企業による統合報告書を研究する
- Green Metric 2020に提出した学内情報やUSR評価指標案を共有する
- 自己チェック表に基づき本学の取り組み状況を調査し、調査結果を共有する



2021年5月6日合同ゼミの様子
統合報告書作成チームより、小林氏・関氏が学生たちに向けてプレゼンテーションを実施

< 主要参考文献・資料 >

- 私立大学社会的責任（USR）研究会（2004, 2005, 2006, 2007）『私立大学の社会的責任に関する研究報告』
- 私立大学社会的責任研究会（2008）『USR入門—社会的責任を果たす大学経営をめざして』
- The International Integrated Reporting Council (IIRC)
<https://integratedreporting.org/>（2021年5月25日確認）
- 国際統合報告評議会(IIRC)「国際統合報告フレームワーク日本語訳」
https://integratedreporting.org/wp-content/uploads/2015/03/International_IR_Framework_JP.pdf
（2021年5月25日確認）
- Times Higher Education “University Impact Ranking”
https://www.timeshighereducation.com/impactrankings#!/page/0/length/25/sort_by/rank/sort_order/asc/cols/undefined（2021年5月25日確認）
- University of Indonesia “Green Metric World University Ranking”
<https://greenmetric.ui.ac.id/>（2021年5月25日確認）